

第2回

協働学習企画入門

全文テキスト

文部科学省委託事業
エル・ネット「オープンカレッジ」

東北芸術工科大学
高等教育情報化推進協議会

東北芸術工科大学公開講座

IT活用で生涯学習を
80倍面白くする方法
 e-ポートフォリオ入門

全2回
高等教育情報化推進協議会

第2回

協働学習企画入門

講師 前川道博
東北芸術工科大学専任講師

【 3 】 協働学習企画

生涯学習に寄せる IT 革命の波



第2回講義の狙い

eポートフォリオ入門第2回「協働学習企画入門」です。前は個人がeポートフォリオ学習をどのように楽しめばいいんだろうということについて学びました。今回は、今度は、それを学習の輪、地域づくりの輪に広げていくということについて皆さんと考えていきたいと思います。



生涯学習のIT革命

生涯学習の学び方というものが多様化してきています。特にITというものが普及して、その学び方の質というものが大きく変わっています。これはある意味100年以來の大きな変革だと言われています。その前は黒船来航。皆さんご存知の黒船来航。幕末を大きく変えました。そして日本を変えました。そのときに吉田松陰、松下村塾というのを開いたりしています。寺子屋というところで、主体的に学ぶということを実践した。それが近代日本を作る大きな力になったといわれています。

そして今日は、この現代はインターネットですね。情報革命というものが今起きているわけです。それと共にそれにふさわしい人材育成、学び方。こういうものが求められてきています。

それが何かというと、一つはインターネットを活用していくということなんです。そして主体的に学んでいくという、その学び方

を広げていくということなんです。その有効な学習方法がeポートフォリオ学習なんです。そしてこれをもっと地域の中に広げていく。そして学習の輪を作っていく。そして社会を豊かにしていく。こういうことを皆さんと考えていきたいというのが今回の「協働学習をどのように企画していけばいいか」というテーマ設定なんです。



ポストIT講習

IT講習が各地で開かれています。IT、パソコンというものは何かをするための手段ですね。決して目的ではないんです。ですから道具をどう使うかということを知る、ということもあるんですけども、もっと大切なことはそれを何に役立てていくかということですね。パソコンも昔と違ってとても使いやすくなりました。マルチメディア、インターネット、そしていつでもどこでも持ち運べるパソコンも出てきています。ケータイのようなものもその端末になってきています。そのようにコンピュータ、メディアというものの環境が大きく変わってきました。

そうするとこうものをどういうふうに学習に役立てるか。こういう発想も自ずと変わってきます。これまでは一に習熟、二に習熟。とにかく道具を使うので大変でした。ですから、ワープロでも表計算でも一つ一つ覚えなないと行かなかった。ですけれども、これからは生き甲斐、もっと豊かな生き甲斐を創造していく一つの手段として使ってみると、その辺の発想も全く変わっていくんじゃないかと思っています。



学習ニーズの多様化

生涯学習講座がいろいろな生涯学習施設などで開かれたりしています。実はとても学ぶ人たちのニーズが多様化してきています。そして、メディアも多様化してきているので、この辺の状況変化、学習のニーズに応えるというのがとても難しくなってきました。昔は何か講座を開けば、100人も200人も集まった。ですけれども、今は非常に多様化したニーズの中で、同じ講座を聞きに来る人が20人、30人と少なくなってきました。そういう状況の変化もあります。そうするとそういったものを企画して提供するというのはなかなか難しくなってきましたね。それは今日の生涯学習のニーズとちょっとだんだんとずれてきつつある。そういう状況の変化があるかと思います。

協働学習モデル「楽しく協働学習」



公開講座「楽しく協働学習」

- これからはどういうふうに生涯学習を進めていけばいいのかということを考えて、地域学習あるいは地域づくり、コミュニティづくり、そういうふうなものを学習活動、地域の活動にしていこうという発想の転換がとても大切なんです。

併せてその中で情報を共有できる。情報を出し合う。こういうことが支援できていくととてもいいわけです。そのためにもeポートフォリオというものが、一つ仕掛けとしてあるとですね、それを皆が共有できる。皆で更新できる。そして活動の記録、活動の様子が伝えられるというふうなことになってきます。

東北芸術工科大学では2002年に、プッシュコーンという道具を使って、協働学習のモデルになる「楽しく協働学習」という講座を開きました。これは4回開催しました。いろいろなテーマが考えられますので、あれもこれもという具合にはいかないんですが、4つほどに整理しました。一つは「環境学習」、それから「自然観察」「地域学習」、旅のレポート「旅れば」です。こういう4つのテーマで興味あるテーマの講座を選んでいただいて、皆さんに参加していただいてですね、ポートフォリオをどのようにすればできるんだろうか。それを実習を含めた形で2日間の講座として開きました。

モデルケース
「PushCornワークショップ～楽しく協働学習」

- 2002年度東北芸術工科大学公開講座
環境学習編、自然観察編、地域学習編、旅れば編
子どもから大人まで、スキルレスで「eポートフォリオ学習」

各回の学習サイト	
	【1】環境学習編「エコウォッチ in 山形」 開催日：2002/05/18-19 講師：杉浦正吾（環境学習アドバイザー） 前川道博（本講座コーディネーター）
	【2】自然観察編「皆の自然観察ノート」 開催日：2002/07/27-28 講師：川辺孝幸（山形大学助教授） 前川道博（本講座コーディネーター）
	【3】地域学習編「皆の地域レポート」 開催日：2002/08/10-11 講師：伊勢 博（東郷インターネットクラブ会長） 前川道博（本講座コーディネーター）
	【4】旅れば編「皆の旅ればサイト」 開催日：2002/12/14-15 講師：尾形美香（Webデザイナー/旅れば発案者） 前川道博（本講座コーディネーター）



講義とフィールド学習

1日目はレクチャーとフィールド学習ですね。まず午前中は「協働学習って何?」「プッシュコーンって何?」という概論を、まずレクチャーを受けていただくという形で開きました。そして午後はフィールドに出て行って、取材をしてくる。そしてそれをデジカメを持って行って撮ってくる。ビデオを持って行って撮ってくる。そうするとホームページを作る、ポートフォリオを作る素材ができるわけです。そしてデジカメで撮るといことは、対象世界に対する自分の興味を切り取るということですから、そこには自分の何がしかの関心事があるということなんです。

それを持ち帰ってもう一回よく観察してみると、いろんなことが見えてくる。あるいはなんでそこで自分が撮ったかということの意味が見えてきます。今度はこれを文章にして表現してみるわけですね。それもまずはあまり時間をかけずに一通りやってみるといことがとても大切なことなんです。

一度やってみるによっていろんなことが見えてくるわけです。そして方法がわかるわけです。1つできると、

今度は2つ目もできます。2つ目できると3つ目もできます。ですから1回やるのがとても大事なんですね。そこにいるんなこと気づいていただけるはずなんですね。気づくはずなんです。そして何か面白いことが見えてくるかもしれないんですね。そういうふうにして始めるというのがこのワークショップの狙いだったんです。



PushCorn ワークショップ「楽しく協働学習【1】環境学習編」

開講日：2002年5月18～19日（土・日）各日10：00～17：00

講師：杉浦正吾（環境学習アドバイザー） 前川道博（東北芸術工科大学専任講師）

趣旨：

環境学習の楽しさを皆で体験してみましょう。さらに環境レポートをネットにも公開してみましょう。環境学習アドバイザーの杉浦正吾さんから環境学習の手ほどきをうけた後、身の回りの環境をデジカメで撮りながら調査します。

これまでの環境学習と違い、鉛筆とノートの代わりにデジカメとインターネットを使ってレポートをまとめます。さらには、ネット上でアドバイザーや受講者どうしが教えたり教わったりしながら、環境学習がもっと有益になる交流をしてみます。

ワークショップの内容

・第1日

講義（午前）「協働学習」ってな～に / 「PushCorn」ってな～に /

環境学習のポイント

環境調査（午後） 芸工大周辺の環境を皆で調査しよう！

環境学習アドバイザーのスタッフが思い思いの場所に同行します。

・第2日

実習（午前）「環境レポート」を作ろう！

実習（午後）皆で情報をやりとりしよう！



発表する人は2年前の鍛治博さん

「協働学習」ってな～に / 「PushCorn」ってな～に

講師：前川道博（東北芸術工科大学専任講師）

「環境学習」のポイント

講師：杉浦正吾（環境学習アドバイザー）

学校では「総合的な学習の時間」、週休2日が始まりました。講師の杉浦さんは、こうした状況を活かしていけるように、PushCornを使って「1イベント1ホームページ」という新しいコンセプトで学習プログラムを作っていくことを提案しています。

その具体的な実践事例でもある「エコウォッチ in 手賀」を例に、「環境学習」の進め方をわかりやすく解説していただきました。

学習のポイント：

・ マイナス因子、プラス因子などをできる限りあらゆる側面から記録すること

マイナス因子：不法投棄や乱開発など

プラス因子：きれいな公園や道端の花壇など

・ 記録場所をマップにポイントし、自分のコメントをメモっておくこと



eポートフォリオ作り

1日目。そして2日目はポートフォリオ作成と成果発表ということで、コンピュータを使って、プッシュコーンを使って、ポートフォリオを作り始めるということを経験していただきました。だいたいこれは半日ぐらいでやって、後は思い思いに時間を使っていただくと。そして心行くところまで作っていただいて、最後に成果発表をするということでまとめをしました。これで2日間です。

だいたいこれぐらいの内容、組み立てで講座を開くことができます。これはもちろん協働学習の入り口に立つものなんですけれども、ここで一通り体験をしたら今度は、自分の中にある、ホン

トに学びたいものですね。これをもう一度問い直していただくといいわけですね。そして私は例えばバードウォッチングに興味があるということであれば、そういうポートフォリオを企画してみればいいわけです。そういう同じテーマで、何人も参加できるようにあれば、協働学習という形にして、地域の人が参加できる講座として開いていただくと、そこにたくさんの人たちが参加できるわけですね。

これは、これまでのIT講習。ワープロを使うとか、表計算を使うとかいうのとは全く違う、目的指向の、目的のために道具を使うIT講座になっていくわけなんです。ITを学習の手段として使う講座ということです。これが協働学習の基本的な考え方です。



受講の後は面白さ数倍

鍛冶さんは公開講座に参加された後で、「最上33観音」のサイトをいきなり作られましたよね。その辺は何か思っていたことがあったんですよね。

鍛冶 そうですね。私の場合は、何ですか、自分の足跡を残したいというのが一つ。それから山形県にせっきく聞いたことあるけれども、最上33観音という立派な史跡があるということで、自分の足でとにかく回ってみよう。本とか何とかありますけれどもね。自分で、自転車と足で、あと自動車も若干使いましたけれども、自分の眼で確かめてみようということで作りました。それが一つ。

それからもう一つは、登山をやるんですけども、登山も年齢と共に弱くなりますけれども、高い山は高い山なりのストーリーを作ってますね、動画と静止画と、花と合わせたもので作ってまして、これは今年も来年もまた随時積み重ねていきたいなと。目的としてはそんなことで作ってました。

それを始める前と後と、どういふ生き甲斐の違いと聞くのも失礼ですけど、何が変わりましたか。

鍛冶 それは違いますね。目的と。それから行くということ。で何をするかっていったって、ただ普通ですと山へ行けばただ登るだけですけれども、今は山で登って、皆さんに少し情報を発信しようということであれば、カメラ技術、ビデオの技術、それから制作と、やはり一貫した作業が伴いますんで、これは楽しいですね。前後と、前と後と楽しみが増えます。

何倍か楽しい...?

鍛冶 数倍ですね。

これは80倍広げようということなんです。

鍛冶 そうですね。可能だと思います。



eコミュニティで生涯学習



eコミュニティを实践

e コミュニティを实践

はい。で公開講座は2年前になりました。そして、1年前はちょうど国民文化祭というのがあったので、そのときに情報レポーターというのを組織して、自分たちの地域で開かれる国民文化祭をレポートしていこう。それを市民の力でやっていこう。それをネット上に残していこうということでやったわけですね。

これも一つのなんといいますかね。コミュニティの活動になっていったと思うんですね。非常にその中で実践力を磨き、スキルも上がるし、企画して人とつながってやっていくときに、何をどうしていけばいいんだろうと、いろいろな諸々のことを学ばれたんだと思うんですね。

その辺で難しかった点とか、今振り返ってみるとどんなことがありますか。



鍛冶 難しいというか...、とにかく我々あの時点で活動を始めたというのは、ホントにふって湧いた自分たちの自発的な、発展的にできた事柄ですから、企画、それからどうしようかと、どんな編成にしていこうかということから始まりましてね。そして最終的にどんな決着してどんなサイト作るのかと、そこまでを大体料理をして、そこに皆くっつけていったと。皆さんの情報、皆集めていったと。最後にアップしまして、インターネットで流すという一連の作業を兼ねてたもんですから、企画からとにかく何もかも、最後まで集約したということで一つホントに大きい力になりましたですね。やはり試行錯誤しながら作ったというのが大きい初めての事柄でしたんで、まして十数名の人間が集まりましたからね。その辺もあったような気がします。



国文祭情報レポーター

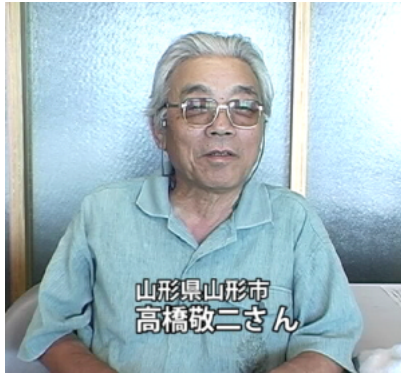
国文祭情報レポーター



海谷 国文祭というのは単発のイベントで、10日間が終わってしまえば後は何も残らなくなるんですけども、それまでの期間というのがすごく重要だと思ったんですね。その中で人の出会いとかいうのを、国文祭が終わってからもずっと続けていけるような、そういった人の関わりっていうのを作っていきたくて思いましたので、記録という部分を情報レポーターとして、一つの集団というか、志を持つメンバーの集まりということで、継続して活動できるような形にしていきたいと思いました。

デジカメ持ってらっしゃる方には、写真画像ということでアップしていただいたんですけども、ビデオカメラを持ってらっしゃる方には、動画の形でプッシュコーン使ってアップしていただいて、それをインターネット上で公開していきました。



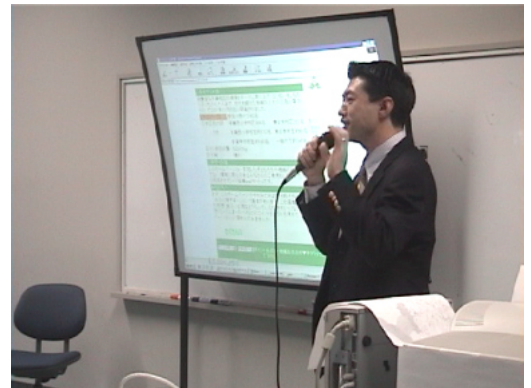


それで面白いと。そしてたまには一杯飲むということで、だんだん深みにはまったというと変だけれども...

高橋 私も情報レポーターになって、ビデオカメラを買った。そして何とかそれで撮った...。もともとからそういう趣味があって使いこなせるという状態ではなかったわけです。こう仲間に入ってみると、自然と友達ができるわけですね。私の商売上、何というか、おなじような職人のつきあいだったので、まあ、若い人で、いろんな変わった人もいるわけだからね。それ



前川 (国民)文化祭情報レポーター。海谷さんが呼びかけて集まりました。ただ、実際にはその前段には、プッシュコーンワークショップという公開講座で、興味を持った何人もの方がいらっやって、その方たちが参加されて、中心メンバーになっていったということが実はあるんですよ。ですから、そういうのをやりたいと思っている方を集めてもらうような一つの仕掛けとして協働学習企画、ワークショップを開くとかですね。そういう場がとても大切な意味を持つてくるのではないかな、と思います。





eコミュニティで学び合い

昨年、山形では国民文化祭情報レポーター、さらにはその人たちが次の新しいテーマとして、「山形あ・ら・か・る・と」という地域のレポーターですね。市民が主体で情報を伝えていくっていうのを始められました。ここではこういうものを「eコミュニティ」と呼んでみたいと思います。

これはいろいろな意味があります。コミュニティというのは非常に広い意味です。既にあるコミュニティもあります。例えば町内会のようなもの。地域の中で既に活動しているというグループもあります。その人たちがITを使うということを考えて活かしていくと、これは一つのeコミュニティに変わっていく。それから

ITを一つの接点としてつなぎあってできてくるコミュニティ。「山形あらかると」「情報レポーター」。これもそういったつながりであったかと思うんですね。

決してバーチャルなものではないんですね。ITを道具として使うというのが一つの共通の接点なんですね。そして自ら情報を伝えていくという形なんです。自ら伝える情報の部分に限って言うと、前回の講座の中で解説をした「eポートフォリオ」という形であったりするわけです。それがさらに情報レポーターという形での活動になるとすると、それが情報レポートサイトになっていくということなんですね。それをポートフォリオと言うか、情報レポートと言うかは、あまりたいした違いではないんですけども、ただ、それが5年、10年と続けば、自ずとそこには大きな情報の蓄積ができていくということなんです。それはどういう内容、形態であれ、ポートフォリオが一つ一つ成り立っている。そしてポートフォリオを協働で作るということもあるということなんですね。そして一人一人の発信しているものが束なると、それがまた束なった形でのものになっていくということなんです。共有されていくということなんですね。

このようにポートフォリオ、あるいはそれを使った形での取り組みを通じて人と人とが繋がっていく。こういうふうな新しいあり方です。これを「eコミュニティ」と考えたいと思います。



学習講座はきっかけ作り

最初のきっかけというのは、公開講座のような、ワークショップのようなものであったりするわけですが、当然、それはその場限りですから、それで終わりです。ただ、それを一つのきっかけとして、そこで知り合った皆さんが何か次の展開を始めていくというふうに行くわけですね。これが持続性のあるコミュニティになっていく可能性があるわけですね。

今日、こちらにお越しになっている皆さんは、2年経って、これからどう進めていけばいいのかなというところを、自分たちの中で答を出しつつあるということなんです。これからも末長く見守っていきたいと思っています。



give and takeで学ぼう

でも、そのように教えあう、学びあうというのが、まさに生涯学習講座の、これまでのやり方に替わるものですから、お互いに教わる、学ぶという形なわけです。ですからご迷惑をかけたという面もありますけれども、むしろ教えてもらう人にとっては、教えてあげることによってまた学ぶことがあるわけですから。そのgive and takeだと思うんですね。それがこれからの新しい学び方ではないかなと思うんですね。それが「eコミュニティ」の意味するところなんです。それが学習コミュニティであることの意味なんです。

これはやはり人間関係。こういうつながりがないと、それはできないわけですね。そうすると、これをどういうふう導入していくといいのかということなんです。今こういうものができればいいんだけど、なかなか出来そうで出来ないという、いくつかの壁があるように思います。

【 4 】 協働学習で地域活動 / 裏方のサーバ運用

地域で学び合い教え合う



eコミュニティを育てよう

私たちも2002年に公開講座「PushCornワークショップ」を開いて、本当にeコミュニティができるんだろうかということは半信半疑の部分もありましたが、それでもそうしたグループが各地に形成されつつあります。山形の例で言うと、一つは「やまがたネット」というものがあります。東根インターネットクラブ、そしてひがしねネットですね。東根市を中心とした人たちのつながりができています。そしてやまがたネットは一方で国文祭情報レポーター、「山形あらかると」の皆さんのような展開を生み出しているということもあるわけなんです。

それから「かずみがうら*ネット」。茨城県の方のかずみがうら*ネット。環境、霞ヶ浦の様子、市民団体の活動などを記録していこうという取り組みが一つ育ってきてつつあります。それ以外にもいくつかの学習グループが広がっています。こういったものがこの1年、2年の間に徐々に育ってきました。まだまだ時間が経って間もないこともありますので、これから本当に3年、4年、5年と続いたときに、さらに本物に近づいていくというふうな成熟をしていくんだろうと見ています。



協働学習は現代の寺子屋

ここでは生涯学習がeコミュニティを作る。これが不可分に結びついていくようなものを提案したいと考えています。これは昔の例で言えば、寺子屋に近いものかもしれませんが、お互いに教えあい、教えられるという関係ですね。学びあい、学ぶという関係ですね。これが生涯学習の望ましい姿ではないでしょうかと思います。地域に根ざしていくというのがとても意味のあることなんです。それは今ネット社会になって、遠隔地でもお互いに情報の交換ができるようになりました。ただやはり顔と顔を合わせておつきあいです。そこで直接お会いする中で学んでいくと、そういう面はどうしても必要なんです。なかなかその部分がないと、自分で行き詰まったときになかなか助けにくいという面があったりするのは現実にそうなんです。

これは一つ地域の中でリアルな人のネットワークと共にeコミュニティができていくといいというのが望ましい姿かもしれないと考えています。



企画力のあるリーダーを

協働学習ということなんですが、何を企画するかということ、それを企画し、コーディネートして下さるリーダーになるクラスの方が求められるということなんです。ですから社会教育施設でこういったものを企画される際には、講座を企画される方が、講師を呼んでレクチャーをしていただくというような発想から転換していただいて、皆で学びあうというふうな一つ、寺子屋のようなイメージで捉えていただくといいんじゃないかと思うんですけども、皆が集ってそこで何か学べるという形を引き出していただけるような企画をしていただけるといいんじゃないかと思うんです。

これはいろんな切り口があると思うんですね。その辺もまた皆さんとご一緒に考えていけるといいと思っています。一つは地域づくりっていうのがあると思うんですね。自分たちの地域を活性化するために何をすればいいんだろかというアイデアを出し合う。それをやっていくということですね。

それから学校で子どもたちがいろいろ学んでいます。お父さんお母さんも一緒に何か出来るとよかったです。なかなかそういう親の交流ってないんだと思うんですよ。何かの機会に親子で参加できるような場を設けてもらうとかですね。それもまた学習機会を提供していくということになると思うんですね。

そう考えるといろいろあるはずなんです。それを是非皆さんの中で、じゃあ、自分たちは何をするといいのかなというふうにお考えいただくといいかと思えます。



自発的に参画し協働で

協働学習がどういうものかということなんですけれども、一人一人の自発的なものの持ち合い、そしてそのコラボレーション。やりとりですね。掛け合いといいますか。そういうふうなものではないかと思えます。そしてeコミュニティというものなんですけれども、一人一人がしっかりと自分の興味のあるものを持っている。そして活動を持っているということであって欲しいと考えています。これは豊かな地域づくり、豊かな社会を作っていくということであれば一人一人が参画していく。そしてまたそのつながりで地域社会もできていくという成り立ち。これと全く重ねてみるすることができます。一人一人が自発的、自律的に参画し

ていくという関係性ですね。これが何よりも求められるものなんです。

そしてその接点としては、皆が興味を持って持続していけるようなものですね。これがコーディネートされているといいということなんです。そういった活動がやがては、未長く持続性のあるものになっていくと望ましいということなんです。それを通じてITというものを目的ではなく、手段として役立てていくという文化がそこに根付いていく、形成されていくというものになっていくんであろうと考えています。



皆が参画しやすい企画を

協働学習をどのようにコーディネートすればいいだろうかということなんですが、いくつかポイントがあるかと思います。それはポリシーと言いますか。何のためにそれをしていくのかという理念、運営方針を持つということですね。その上で全体をコーディネートしていくということです。

ですから、これは生涯学習施設であれば、施設の担当の方がそれをしっかりと企画していければいいです。それから地域の人とも連携しあっていくというふうなつながりができるとさらにそれが、より豊かなものになっていきます。企画についても皆が参画しやすいような企画を考える。そしてあまり硬く考える必要もな

いと思うんですね。どんなテーマでもいけます。ただそこに興味を持って参加できる人たちが多いというのがまずはいいのではないかと思います。学校でも学んでいる子どもたちが今度は親と一緒に何かやってみるとかですね。そういったちょっとした誘いかけ。発想の転換。それがあかないかで、できるかできないかが大きくかわってしまうわけなんですね。

裏方のサーバ運用



サーバを運用して皆で共有

こういったコミュニティを作る仕掛けとして、私たちはポートフォリオのツールを、サーバで皆で運用するというモデルを提案しています。今回こちらにお集まりいただいている皆さんは、地元山形ですので、「やまがたネット」という、これも一つのeコミュニティなんですけれども、サーバを運用しそれを皆さんが共有できるようにするという形で運用しています。

ただこういうのは裏方の仕事ですので、説明しても人にはなかなかわかってもらえないという面が現実にあります。ですけれども、自分たちが必要なことを実現しようとするれば、権利の実現ですから、そこは責任もあるし対価も伴うということでもあったり

するわけなんです。そうすると実際にはお金もかかる。人手もかかるということになるわけなんです。こういうことも合わせて解決していかないといけないことでもあったりするんですよ。



サーバは経費も手間もかかる

このように協働学習で皆が参加してポートフォリオを作る。あるいはデジタルアーカイブを作るといことができます。ただそれをどのように運用すればいいのだろうかというのが、また次の課題になります。

というのはホームページをネット上に開くためには、サーバがないといけないんですね。サーバというものがないとホームページを公開することができません。サーバというものがなくなってきます。

そして、このようにたくさんの人たちのものをどんどん載せていく。そして画像も音声もビデオも載せていくとなると、たく

さん容量がいります。ですから普通のサービスではそういうものに対応することができません。ですから、いかにこういうサーバ、サービスを実現していくかは大きな課題になっていくんですね。

こういうことについては、なかなか技術的な話になったりして、よくわからない、ということで、生涯学習施設でこういうものを導入する時のネックになっています。わからないから業者さんに頼む。そしてコストをかける。こういうのも実際に難しかったりします。

じゃあ、どうすればいいんだろうか。それは一番安いコストでできる方法が一番いいわけなんです。ということは例えばどういうことかと言うと、学習グループの中で有志の方がサーバを管理したり運用したりする。あるいは何人が技術のわかる方が分担してボランティアに支えていく。そういうふうなことが考えられます。それも地域活動の一つと考えられるんですね。

これまでは地域活動といった時に、ITが関わってこなかった。ですから、そういったことが発想の中に全くなかったかと思うんです。ですけれどもこれからはITを活用していく時代です。ですから地域の中に技術的な面を支えることのできる人がいないと、なかなかそういうコミュニティを作る、情報を共有するということの支援は難しいんですね。

で、これを施設の中だけで解決しようとする、ちょっと難しい面があります。どうしてもお世話をしないといけない。すると難しいからわからないということになります。その一方でお金もかかります。じゃあ、これをどうすればいいんだろうかということなんです。

一つはお金の経費的なところで、負担できるところは負担していただくと、実は非常にいい運用ができるという例をこれからお見せしたいと思います。そしてそれを市民の方が支えるという形でコミュニティが運営できるというモデルケースをご紹介します。

サーバとeコミュニティ

<eコミュニティ訪問>の「サーバとeコミュニティ～やまがたネット」を参照。

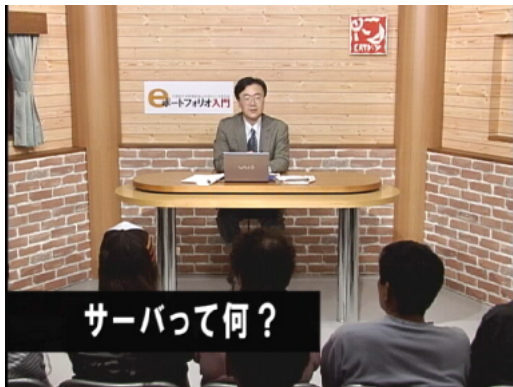


サーバや技術も学ぶと面白い

私たちがいろいろな取り組みをしながら、サーバを作ったり運用するのは難しいのではないかなと思ってきました。実際にそう思って、普通の方にはわからなくてもいいという形でやってきた面もあります。ですけれども必ずしもそうではないということに気づきました。それは私たちの一つの成果なんです。

ITを活用する。ポートフォリオを作る。グループでデジタルアーカイブを運用する。共有する。こういう文化が育っていくと、これまでは全くブラックボックスでよかったサーバという、裏側にあるものですね。ここに皆さん興味を持ってくるんです。一体

これは何なんだろうというふうに興味が湧くんです。それを決して隠しちゃいけないんですね。これはむしろよく理解していただくことによって、自分たちがやっていることの意味とか、あるいは全く裏方でやっていたんだけれども、実はとても大きな役割を果たしている管理者の方の貢献度とかいったものが見えてくるんです。これもまたお互いに教えあう、学びあう。こういう関係がとても大事なんです。お互いに理解しあう。とても大切なことなんです。これが情報の理解をまた一步深めるわけです。そういう学び方もとても大切であると、この場を借りて皆さんにお伝えしたいと思います。



サーバって何？

こういう情報を共有する。輪を広げていくためにサーバというものがとても大切なわけなんですけれども、サーバというものをどういうふうに学ぶことができるんだろうか。あるいはどういうふうに見ていくとサーバというものが面白いのか、あるいはどういうものなのかということをご紹介していきたいと思えます。

留意すべきいくつかの点



権利の尊重

eポートフォリオ、デジタルアーカイブ。こういったものをネットに公開するということができるようになってきました。その一方で気をつけないといけない点、留意しないといけない点があります。それは権利というものを尊重するという考え方ですね。これは自分が撮ったものであれば、自分の著作物になります。その限りにおいては公開することはよいのですが、他のサイト、他の方が撮ったもの。これを勝手に載せることはいけないことなのです。ですからそこはきちんと了解を得た上で載せる。ただそういったことをするとなかなか大変ですし、これは自分で基本的には撮ったものを載せていくということが一番、学習を、自らやっ

た形のものを出していくということからいっても望ましいですね。

とは言いつつも他の人のものを扱うということも場合によっては出てくるかと思えます。地域のデジタルアーカイブを作るといった時に、他の人の作品を扱ったりすることがあります。そういう場合には、それに対しては十分に配慮しないとイケません。その権利についても整理しておかないといけないことになってきたりします。



肖像権という問題

それから自分で撮ったものであっても、例えばそこに人の姿が写っていたとします。それを勝手に載せると、知らない間に誰かさんの顔が出ているということになります。こういうものは肖像権と言いますが、肖像権を侵害することになりかねませんので、こういったことに対しても配慮がいるということなんです。

特にこれからは、誰もが情報発信できる。それは大変便利になったんですけども、その一方で、ややもすると人の権利を侵害しかねない。著作権を侵害しかねない。肖像権を侵害しかねない。こういうことがありますので、初めての方。特にその意識が

なかったりするので、ある意味とても怖い面があるんですね。そこは指導される方は是非ご注意ください、ご指導いただきたいと考えています。



取材では事前の了解が大切

その具体的な方法としては、あらかじめ「こういうものを公開しますので、よろしいでしょうか?」。例えば取材先に行った時にあらかじめそういった紙を用意しておいて、お渡しして説明をするとかですね。そういった方法も必要になってくるのではないかと思います。それから学習会で多くの方が参加したりします。お互いに撮りあったりすると、お互いの顔などが出てしまいます。そのときにいちいち「公開していいですか?」と確認するのは非常に不合理なんです。その場合にはお互いの了解事項として、「この場で皆でやる様子は公開してもいいですね」ということはあらかじめ了解しておく。そうするとお互いに気兼ねなく撮って公

開することができるようになるわけですね。そういったこともコミュニティの中で解決していかれるといいんではないかと思います。

そういう方法がいくつかあると思うんですね。これからの時代、情報を共有する。お互いに情報を出し合うということは、お互いの権利も侵害しやすくなるということでもありますので、特に相手の方の権利というものを気遣ってですね。気持ちのよい形でお互いに情報を共有できるという社会に進んでいきたいな、と考えていますので、是非その辺ですね。お考えいただければと思います。



自律できる e コミュニティ

「e コミュニティ」と一言で言うんですが、これは自律できるコミュニティというのを理想としては考えています。それはどういうことかということ、自分たちの中で意思決定ができるということですね。そして自分たちの中でいろいろな問題が解決できるということなんです。お金がかかればお金がかかったように、それも処理ができるということなんです。そして技術的な面もありますが、その辺も自分たちで支えられるということなんです。一つの自治組織といったら大げさなんですけれども、「自治モデル」というものでお考えいただくと、少しわかりやすいかもしれません。

自分たちの活動ですから、自分たちで責任を持つ。自分たちで支えられるように、自律したものにしていける必要があるということなんです。これが未長く続く、一つの核になっていくのではないかと考えています。

そのメンバー構成など考えますと、まずリーダーですね。活動全体をコーディネーションする役割の方がいます。それからサーバを構築したり運用したりするシステムの運用管理者というものがいます。技術面を担当したり、計画から運用までシステムの面をサポートしていくという役割の人ですね。

それからパソコンの使い方であるとか、わからないところを教えてあげる。これを IT サポーターという言い方で言いたいと思います。IT サポーター。決して技術的に難しいことでなくていいんですけども、使い方とかを手ほどきしてアドバイスしてあげられるような人ですね。こういうのがグループの中に程よく混じっているということが皆の大きな支えになります。

そして学習する人ですね。サイトを制作したり、学習の主役になる人です。こういう人たちの裾野が大きくなって、全体がお互いにですね。学びあう。教えあう。こういう関係に育っていくと。こういうものが e コミュニティというものの一つの描けるイメージなんです。



IT が学習の面白さを引き出す

生涯学習で IT を活用するという一つの提案でもあるわけなんです。とにかく IT というものは非常に難しいために、パソコンをまず学ばないといけな。IT 講習のような形がどうしても避けられないというようなことで、なかなかその生涯学習への展開が進まないで来ました。ですけれども、これからはもっとやさしい道具立てでそれぞれの主体的な学習。面白さを引き出すような支援をしていくという時代に進みつつあります。私たちが取り組んできたものは、プッシュコーンという道具を使って、それぞれのポートフォリオを作ってもらおう。またそれを通じて協働学習を考えていただくということだったんですが、実際にこれができる

ということが、徐々に証明されてきました。そしてその裾野が広がってきつつあります。この機会にもっと、より多くの方にですね。こういった方法。プッシュコーンが決して唯一の方法ではないんですけども、やさしい方法で、本当の、本来の学習の面白さを引き出すことに役立てていただくという文化がもっと広がっていくといいというふうに考えています。



地域に開かれた生涯学習を

いろいろな課題が生涯学習についてはあります。一つは中高年齢層の方が非常に多くなってしまおうという傾向ですね。本当はもっと若い人たちと交流できるというんですけども、なかなか社会の中に接触する場面がないということがあるんですね。

これは一つは大学がもっと地域に開かれていく。こういう形でその中でも協働学習というものが生まれていくのではないかとこのように思います。

それから中高年齢層の方の中でお互いに学びあうという形で、特にITというものは苦手な方が多いようなんですけども、決してそんなことはないということは、こちらにご参加いただいている

方も証明されている。ですからそこはやはり自分たちの中の「面白さ」を引き出すことではないのかなと思います。

で、生涯学習施設。先ほどもサロンが欲しいとか、なかなか住民の人にその場を開放してくれないとかいった指摘がありました。そういった問題を解決していただいて、eコミュニティが地域に根付くようにですね。是非皆さんにもご支援いただいて、これからの地域活動のデザインの中に活かしていただきたいと思います。

IT活用で生涯学習を
80倍面白くする方法
eポートフォリオ入門
ホームページ
<http://www.mmdb.net/eport/>
本講座でご紹介した事例のより詳しい
情報をインターネットで提供いたします。
どうぞご覧ください。

<p>出所一覧</p> <p>テキスト『PushCornワークショップ eポートフォリオ入門』 前川達博著 東北芸術工科大学メディア環境研究室</p> <p>協働学習サイト（eポートフォリオ）事例 東北芸術工科大学エクステンション 『PushCornワークショップ「楽しく協働学習」』</p> <p>エコウォークin手賀実行委員会（千葉県沼南町） 『エコウォークin手賀』</p> <p>山形県西川町 『西川町資料館』 『西川町石碓石伝資料』 『西川町の山菜料理』</p> <p>国文祭やまがたサポーターズ 『国文祭やまがたサポーターズ映像館』</p>	<p>出所一覧</p> <p>いばらきし3ネット 『いばらきし3ネット』 かすみがうらネット 『勤十郎鑑探訪』（かすみがうらネット記録アルバム） わが町再発見プロジェクト実行委員会 『わが町再発見プロジェクト』</p> <p>チャレンジキッズ 『チャレンジキッズ』 滋賀大学教育学部附属養護学校 学内のeポートフォリオ実践サイト 東根インターネットクラブ 『東根インターネットクラブ』</p> <p>FM Flower 『FM Flower』 『Web Flower』 茨城県水戸生涯学習センター 『茨城の生涯学習』</p>
--	--